

今週（1月30日から2月3日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、先週に引き続きビッドサイドの資金調達ニーズが強く、レート水準は高止まりする展開となった。

無担保コールO/N物は、連日、邦銀業態を中心に▲0.01%台にビッドが集まる展開となった事で、30日から2日までの加重平均レートは、▲0.014～▲0.013%の非常に狭いレンジでの推移となった。3日は、週末となった事により、ビッド水準を僅かに上昇させた先も散見された。

ターム物に関しては、ショートターム物を中心に、▲0.03～0%程度での出合いが散見された。

日銀当座預金残高は、週初522兆円程度から始まった。31日には財政資金の支払いにより524兆円程度まで増加したが、1日に2年債の発行、2日の税揚げ等の要因により514兆円程度まで減少した。

また、31日には事前予定通り、貸付期間5年(2023年2月1日～2028年2月1日)の共通担保資金供給オペ(全店・金利入札方式)が10,000億円でオファーされた。結果は、応札額32,639億円、落札額10,004億円、按分レート0.100%、平均落札レート0.142%、按分比率32.9%となった。

●レポ市場

今週のGCT/Nは、▲0.11～▲0.09%のレンジでの取引となった。輪番の国債買入オペや共通担保資金供給オペを経て、オファーサイドの資金調達姿勢がやや鈍くなる場面も見られ、先週に比べレート水準は低下となった。

SCIは、カレント銘柄近辺やチーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、1Yゾーンが流通市場で買い進まれ、堅調な推移となった。

3日に実施された3M物の入札は、大方の事前予想通り無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでもしっかりと推移した。

短国買入オペは、31日に前回と同額の1,000億円でオファーされ、全取利回り較差、平均落札利回り較差ともに+0.009%と、無難な結果となった。

●CP市場

今週は、月初の発行があり、機械・鉄鋼・石油等の複数業態で大型発行が行われ、週間では発行超のマーケットとなった(金額ベース)。

市場残高は、30日に28.5兆円程度まで回復したが、月末31日はやや減少し、27.8兆円程度での着地となり、その後は横這い圏での推移となった。

発行レートについては、日銀の適格担保銘柄は概ね浅いプラス圏で決着している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
1/30(月)	27,433.40	0.475	130.06	△0.014	△0.097	5,226,000
1/31(火)	27,327.11	0.490	130.41	△0.014	△0.100	5,247,600
2/1(水)	27,346.88	0.480	129.87	△0.013	△0.101	5,225,400
2/2(木)	27,402.05	0.495	128.40	△0.013	△0.106	5,143,400
2/3(金)	27,509.46	0.484	128.68	△0.012	△0.106	5,123,000

来週（2月6日から2月10日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
2/6 (月)					
2/7 (火)	12月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 12月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 1月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 12月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	30Y 9,000億円 2/8発行	エネルギー 対策借入 6,400億円 2/20借入		12月の米貿易収支 12月の米消費者信用残高
2/8 (水)	12月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 1月の景気ウォッチャー調査(内閣府)				12月の米卸売売上高
2/9 (木)	1月のマネーストック(日銀 8:50) 12月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB6M 45,000億円 2/10発行	10Y物価連動 2,500億円 2/10発行		
2/10 (金)	1月の企業物価指数(日銀 8:50)	TB3M 63,000億円 2/13発行			1月の米財政収支 2月のミシガン大消費者信頼感指数速報 10-12月期の英GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/6 (月)	600	6,200	6,800	国債買入 国債補完 CP買入	58,500 ▲100	15,900	74,300	81,100	TB3M発行▲60,000 償還60,000
2/7 (火)	1,000	3,000	4,000				0	4,000	
2/8 (水)	1,000	▲9,000	▲8,000	全店共通	▲5,800		▲5,800	▲13,800	30Y発行▲9,000 交付税借入▲12,000 期日12,000
2/9 (木)	500	3,000	3,500				0	3,500	
2/10 (金)	500	▲5,000	▲4,500				0	▲4,500	TB6M発行▲45,000 償還40,000 10Y物価連動発行▲2,500
週間合計	3,600	▲1,800	1,800	—	52,600	15,900	68,500	70,300	

2/6は日銀予想、2/7以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き調達ニーズが強い展開が見込まれ、▲0.01%近辺の高めのレート推移が予想される。債券レポGC O/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ▲0.11%～▲0.09%のレンジでの推移が予想される。短国市場は、10日に3M物の入札実施が予定されている。また、7日に実施が予想される短国買入オペは、1,000～5,000億円程度が見込まれる。CP市場は、8日にC P等買入オペが4,000億円予定されており、結果が注目される。

主要なイベントは、国内では、8日に12月の国際収支、10日に1月の企業物価指数、海外では、7日に12月の米貿易収支、10日に1月の米財政収支、10-12月期の英GDP速報値などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入